

生活支援体制づくり協議体（地域包括支援センター三方原 担当圏域レベル）開催報告書	
1 開催日時	令和 6 年 11月 14日 （ 木 ） 10時00分 ～ 11時30分
2 開催場所	初南コミュニティホール
3 参加者	37名 協議体委員17名（地区6名、事業所等11名） 関係機関20名（高齢者福祉課2名、長寿支援課2名、長寿保険課（北）1名、コミュニティ担当2名、包括三方原6名、市社協地域支援課1名、市社協浜松地区センター2名、市社協北地区センター4名）
4 協議の内容	担い手の確保につながる持続可能な地域づくりを目指して
1. 開会あいさつ 会長 2. 自己紹介 新任委員、関係機関 3. 協議内容 ①令和6年度 第1回協議体会議の振り返り ＊7. 19開催報告書参照 ②三方原地区社協「移動支援」進捗状況 （報告） ・利用登録者 130 名（実際の利用者は約 40 名）＊他の人は登録のみ ・運転ボランティア 28 名（主は民生委員で常時 15 名が活動） ・実施回数：6 月 20 回、7 月～9 月平均 30 回、10 月 47 回 （10 月が多いのは敬老会で PR チラシ配布したからかもしれない） ＊家事支援回数；7 月 124 回、8 月 45 回、9 月 75 回、10 月 137 回 ・内容；85%通院（地元開業医が多い）、総合病院、買い物など 施設入居者が自宅の掃除に行きたい（施設⇄自宅） ・問題点；運転手を指定、申込時の内容を変更、運転手が依頼を受けてしまう等 ・行動範囲；基本は三方原地内 特例では、総合病院（医大・十全・住吉聖隷）・市役所・警察はよい ③“福祉”のことを地域に根づかせるための「啓発イベント」について I）・参考資料説明 包括三方原 澤木センター長 R6.1 月～6 月、包括三方原とサテライトで受付した結果 地区別ではない ・会長より趣旨説明 2015 年より協議体メンバーで課題や対策方針を考えて進めてきた。 地区社協活動がどこまで地域に浸透しているのか分からない。 包括の集計から何が地域で求められているか。何が必要かを知ること。 協議体や地区社協の活動を目で見て実態を知っていただくために、<u>何か催し物</u>をすれば多くの人に認知され、横のつながりができないか。ひきこもりの人を引き出すことができないかと思い提案した。 活動を支援する人たちが高齢化している。持続可能な活動にしていくには、働いている人たちにも、将来の担い手として必要になっている。高齢者の自立期間を少しでも長く、老若男女が元気に楽しく安全に地域で暮らせるような、<u>啓発イベント</u>。諸問題も色々あるかもしれないが、地区社協の活動が認知される近道として、皆さんで意見交換していただきたい。	

II) グループワーク

三方原地区、都田地区、新都田地区に分かれて話し合う

III) 発表（情報共有）

【三方原地区】

- ・地区社協の認知度が地域住民に低い。
- ・地区社協広報誌を年3回回覧、ホームページ、機会あるごとに回覧もする。
- ・地区社協として、来年4月に都田図書館の展示スペースで広報活動を予定。
- ・三方原協働センター祭りは、コロナの関係で飲食ができなくなり参加者が減っている。子どもフェスタは、地区社協の広報活動として上手く使えていない。
- ・福祉を前面に出さない形での活動や、既存のイベントとコラボができないか。
- ・例えば、シニアクラブ連合会の発表会やキッズスクールの団体など。
- ・お子さんや現役世代の親や家族も来るので、団体とかも増やしていければ。
- ・地区社協のイラスト、空を飛んで『とびこちゃん』。立体化しキャラクターを作ってPR活動していく。
- ・健康に関するイベントは地域住民の関心が高い。一般企業も絡めて参加を求める。

【都田地区】

- ・周知活動をどういう風に行っているかのお話が出た。
- ・施設の場合、地域の人に施設に来やすい環境を作る。ヨガやロコトレ教室、デイサービスの作品展があるので、地域の人や家族に来てもらい施設を知っていただく。
- ・地元や施設、関係団体等のイベントをカレンダーとかマップにして見える化する。
- ・各地で避難訓練がある。避難訓練をやりつつ、それに合わせてイベントを行う。
- ・色んな楽しいこともやり、福祉のPR（各福祉団体の活動）を住民に知らせていく。
- ・高齢者の関心が高い内容や健康測定等を企業の協力を得てイベントとコラボする。
- ・イベントで餅まきや抽選会など、何か一つ興味のあることをコーナーに設ける。

【新都田】

- ・地区社協の活動や取り組み、福祉についての周知は、イベントを行うのが有意義ではないか。皆さんイベント啓発に賛同。
- ・いきなり大きいものをやるのは難しいので地元とタイアップする。
- ・既存のイベントやおまつり等に参加して、そこから徐々に広めていく方法がある。
- ・キャラクター作ってマスコットの的にすることも一つ。
- ・子どものダンスや趣味活動やクラブ活動の発表の場であれば、両親や老若男女の方が見に来て啓発になる。
- ・健康づくりや体力づくりの場で啓発。ボッチャやモルックなどで人寄せ、関心を持つ。
- ・啓発にSNSを導入し若者の参加や周知に活かす。

4. 第3回開催日程について

令和7年2月14日（金）10：00～ サーラ音楽ホール多目的室3

（浜名区新都田三丁目2-1）

* 事前打合せ：1月16日（木）10：00～ ケアホーム三方原 地域交流室

5. その他

高齢者福祉課からお知らせ（高齢者福祉課主催チラシ2枚）*両方とも空きがある

- ・介護予防講座；1月21日えんてつホール
- ・認知症講演会；11月30日地域情報センターホール

5 今後の見通し・ 必要な対応	
三方原地区の移送支援サービスについては、引き続き支援を継続しつつ協議体の中でも現況など情報共有していく。 今回グループワークで出た意見について、各地区で実施可能な広報啓発方法を検討していく方向で協議を進めていく。	

必要に応じて欄を広げてください。